



# いずくら雄太県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13 電話043(227)7411

## 医師確保の怠慢を厳しく指摘

### 6月定例議会に登壇



医療問題を取り上げ質問する伊豆倉県議

#### 高齢化の進展で

4月の統一地方選挙の県議選で、市原市選挙区から二期目の当選を果たした伊豆倉雄太(いずくら・ゆうた)県議は、令和最初の6月定例県議会で一般質問に登壇しました。伊豆倉県議は、懸案の医師確保対策について「人口推移の予測ができた中で、医師が必要になってから慌てている現状は、今ま

で怠慢だったと言っても過言ではない」と厳しく指摘しました。また、義務教育の教員に英語など専門知識が求められる中、伊豆倉県議は「学級担任制」から、全国に先駆けて「教科担任制」への移行を提案して注目されました。伊豆倉県議の主な質疑を特集しました。

**伊豆倉議員** 今までは怠慢だったと言っても、過言ではありません。しかも、現在、県立病院の医師確保は、各病院長はじめ、病院単位で確保に当たっているのが現状です。病院局は今まで、そして今も何をしていたのでしょうか。

**保健医療担当部長** 県では平成3年、高齢化の進展に伴う医療需要の高まりに備えて、県保健医療計画に初めて医師確保対策の実施

## 救急医療の崩壊を危惧

#### 救急医療ニーズは増加

を盛り込み、これ以降、医師の確保に向けた取り組みを行ってまいりました。平成21年には、医師修学資金制度を創設して、当初10名だった貸付枠を現在は63名まで拡充し、すでに貸し付けを受けた医師92名が県内で就業しています。また、県内医療機関や関係団体と連携して、研修病

院の魅力発信に取り組んだ結果、本年度から県内で研修を開始する臨床研修医は423名、専門研修を行う専攻医は332名と過去最高となりました。今後、医師不足地域における医師確保や更なる医療需要の高まりに対応するため引き続き医師確保に努めてまいります。

**伊豆倉議員** 今後、救急医療の崩壊が危惧されていますが、救急医療の医師確保は具体的にどのようになっているのか。

**保健医療担当部長** 高齢化の進展に伴い、本県の救急医療ニーズは増加傾向にあることから、救急医療を担う医師の確保は大変重要だと認識しています。県では、関係団体等と連携して医師確保対策に取り

組んでおり、今年度、県内で専門研修を開始する救急科の医師は、全国4位となる17名を確保できたところ

です。依然として、医師が不足している地域があることから、今後とも、医師修学資金制度を活用した対策を検討するなど、救急医療をはじめとする政策医療を担う医師の確保に向けて、全力で取り組んでまいります。

#### てんかん診療の拠点化

**伊豆倉議員** 千葉県循環器病センターの存続が決まり、地元では安堵の声が広がっています。循環器病センターが、てんかんの診療拠点機関となるべく早急に進めたいと思います。そこで、循環器病センターの

健康福祉部長 てんかん

てんかん診療拠点機関への指定を、スピード感をもって進めたいと思います。また、てんかん診療拠点機関の指定により、てんかんの医療はどのようなものか、伺います。

県としては、こうしたご意見も踏まえて、早期の拠点の指定に向けて検討を進めてまいります。また、指定により、患者・家族への専門的な相談支援、医療機関を核としたてんかん診療の連携体制が整備されることから、県内でのてんかん医療の質の向上が期待できるものと考えています。

●県政と市原市に関するご意見・ご要望をお聞かせください。

いずくら雄太 県事務所  
〒290-0081 市原市五井中央西2-11-5  
TEL.0436-37-1777 FAX.0436-37-1331

# 教科担任制の導入を提言



再質問に立つ伊豆倉県議

## 専門知識必要な授業

伊豆倉議員 小学校におけるプログラミング教育や英語教育等、専門の知識が必要な授業に対しては、どのような対応をしているのか。

また、プログラミング教育では、3年間かけて約千名名の教員に対し、プログラミ

## 実践的な職場体験を

伊豆倉議員 次に、キャリア教育について伺います。地元地域に残りたいと思う生徒もいる中で、これまでの高等学校におけるキャリア教育の取り組み、課題はどのようなものがあるのか。

澤川教育長 県教育委員会では、平成25年度に「キャリア教育の手引き」を作成し、県立高等学校における体系的なキャリア教育を推進してきました。

産業界からは、これまでの取り組みを評価いただき、

上に努めてまいりました。

# 地域と密着したキャリア教育

ングの実践的指導力に関する研修を実施するほか、県教委のホームページに指導用コンテンツ等を公開し、その活用を促しています。

**要望** 英語やプログラミングなどの専門性を必要とするものも増えてきています。私も小学校3、4年生から学

級担任制から「教科担任制」に移した方がよいと考えます。今後、国の方向性が出てくる中、千葉も全国に先駆けて教科担任制の導入をぜひお願いしたい。

売やサービスに従事することで、仕事の厳しさや喜びを実感させ、職業意識の涵養を図っているところです。

**要望** 現在、全国で、県内でさえも、人口の引っぱり合いになっていま

す。そうした中、都市部、郡部にかかわらず、いかに地域に若者が残り、またそこで暮らしたいと思うことが必要なのではないか。キャリア教育は、そうした子供

## 仕事と子育ての両立

伊豆倉議員 子育て支援について伺います。育児休業やフレックスタイム制など、

両立支援の取り組みに向けた企業の理解促進を図るため、県ではどのように取り組んでいるのか。

森田知事 県では、千葉労働局や経済団体等と連携して、公労使会議の活用を通じて、オール千葉で仕事と子育ての両立など、

誰もが働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。その一つとして、それぞれの企業に育児休業の規定整備や、次世代育成支援に積極的に取り組んでいただくよう、企業において取り組むことが期待される行動案を策定し、さまざまな方法で情報発信を行うことにより、理

たちを支える非常に重要なことだと思えます。

現在、高校によってはインターンシップも行っており、非常にいい結果が出ているそうです。企業によっては、中学生の職場体験を同じように行い、より実践的な職場体験が行われています。少しでも多くの仕事を理解してもらうためにも、より実践的なキャリア教育を行ってほしい。

## 廃棄物処理と景観

伊豆倉議員 観光立県をうたっているわが県であれば、廃棄物の処理や残土、再生土の埋め立てについて、景観や観光に影響の出ないように配慮すべきと思うがどうか。

**環境生活部長** 廃棄物処理施設は、経済活動において必要な施設である一方、悪臭等、周辺環境への影響が考えられることから、設置及び維持管理が適正に行われるよう、事業者が講ずべき措置について、廃棄物処理法で基準が決まっています。

**要望** 観光立県とつた法令順守だけでなく、環境生活部だけでなく、全県的に観光に支障が出ないように考えていくべきだと思いますので、景観の部分についても検討することを要望します。

また、残土及び再生土による埋め立てについては、県

伊豆倉議員 昨年11月に発生した市原市大桶地先の土砂流出事故は、12月から土砂の搬出を開始しているものの、うぐいすラインは未だ開通していません。復旧工事の進捗状況はどうか。また、今後の見直しはどうか。

**農林水産部長** 現在、事業者は見直した復旧計画に基づき、最優先する工事として調節池の造成と崩落した土砂の撤去を実施しているところです。

さらに崩落した土砂を撤去した後に、不安定な土砂

条例において、使用する残土等に関する基準や、定期的な水質検査の義務付け等の規定を設けており、不適正なものがあれば撤去するよう指導しています。

さらに、一定規模以上の最終処分場及び残土の埋め立てについては、環境影響評価制度により、事業の計画段階から、景観や人と自然との触れ合い活動の場に対する配慮を求めているところです。県としては、今後とも法令に則り、適切に対応してまいります。

**農林水産部長** 県では、事業者が進捗状況を週1回報告させ、その後、速やかに現地に赴き、報告どおりに工事が進んでいるかどうかを把握しています。

## いずくら市の土砂流出

伊豆倉議員 復旧工事の1日も早い完成に向け、県はどのように指導しているのか。